

審 査 結 果 の 要 旨

論文題目 「冠動脈インターベンション術後患者における脂質低下療法の有用性とスタチン導入の有無による予後変化の可能性」

学位申請者 田中 重光

本論文は、冠動脈インターベンション術後患者における脂質低下療法の予後への検討を研究した論文である。

2005年1月1日より2007年12月31日までの3年間で1006例の冠動脈インターベンション術を施行された患者が研究対象となっている。症例のベースラインの脂質プロファイル、フォローアップでのプロファイル、スタチン治療の変遷を調べ、ベースラインのLDL コレステロールな予後と関連せず、フォローアップのLDL コレステロールも関連はなかったが、本研究においてスタチン投与群について良好な予後が得られた事が証明された。

本研究に対し、以下の質問をおこなった

- 1, LDL 値と関連はないのに、スタチンと予後が関連するメカニズムは何か。スタチンの多面的効果も一つの解釈であるが、最近の PCSK9 阻害薬などのデータからするとコレステロール低下そのものと考えるべきと考えられる。どのように解釈できるか。
- 2, 冠動脈インターベンション以前よりスタチンを投与されている症例と、そこから投与された症例の比較は出来るか。スタチン総投与期間との関連はないのか。
- 3, 糖尿病の透析患者では、透析導入後のスタチン治療開始は効果がないことが知られているが、これらの患者を除外したら、結果はどうなるか。
- 4, 研究対象がやや古いのが、現段階で新しい薬 (PCSK9 など) の効果について同様の臨床研究は存在するのか。
- 5, 日本人と欧米人で結果に差があると考えられるか。
- 6, 本研究にて設定されたエンドポイントは死亡・心筋梗塞・脳血管疾患・血行再建の複合エンドポイントであるが、血行再建数が、心筋梗塞、脳梗塞、心臓死に比較して著しく大きい。本研究の結果は恣意的な血行再建によりバイアスされた可能性はないか。
- 7, エンドポイントの一要素としての総死亡において、心臓死に対して非心臓死が多かったが、非心臓死の頻度として高かったイベントは何か。

申請者は、これらの質問に対して、自らの研究成果と文献的考察を含めて、適切に回答し、この論文が自らの経験例のまとめとしての限界を有しながら、冠動脈インターベンション後のスタチン使用の有用性を示唆する価値ある論文内容であることを評価者一同に示した。今後の冠動脈疾患における脂質低下療法に対する申請者の貢献に期待したい。

以上の結果、本論文は学位論文として十分な内容を有するものと審査委員全員の一致で判定された。
したがって、申請者 田中 重光 は東海大学博士（医学）の学位を授与されるに値すると判断した。

論文審査委員

主査	博士（医学）	吉岡公一郎	医学部教授	（医学研究科先端医科学専攻）
委員	博士（医学）	伊苅 裕二	医学部教授	（医学研究科先端医科学専攻）
委員	博士（医学）	後藤 信哉	医学部教授	（医学研究科先端医科学専攻）
委員	博士（医学）	深川 雅史	医学部教授	（医学研究科先端医科学専攻）
委員	博士（医学）	長谷部光泉	医学部教授	（医学研究科先端医科学専攻）